

さがみはら 商工会議所 会報

SAGAMIHARA CHAMBER of COMMERCE and INDUSTRY

2026年

September

9

No.625



わが社のいち押し「株式会社グロース」

事業に関わる人々を笑顔に

食と縁でつなぐ

成長への道



TOP INTERVIEW [株式会社ワード技研]

革新的3D技術、
ものづくりに貢献
自動車から建設・ロボット・
航空宇宙へ挑戦

特集

市長講演会
相模原市の未来を創る
～自治の形と経済・都市戦略～



革新的3D技術、ものづくりに貢献 自動車から建設・ロボット・航空宇宙へ挑戦

(株)ワード技研 代表取締役 川井 聡 氏

ワード技研 (中央区清新) は、独自の自動車プレス金型エンジニアリング技術を磨き、自動車のボディー部品を量産するための金型の設計や、サイマルテニナス・エンジニアリング (SE) と呼ばれる工程計画・モデリング・成形シミュレーション解析、3Dリバースエンジニアリングを主力事業としています。現在は、中部地方の開拓のほか、建設、ロボット、航空宇宙分野への進出も目指し、事業拡大に取り組んでいます。今回は相模原市青年工業経営研究会 (青工研) の新会長も務める川井聡社長に、事業内容や技術上の強み、今後の事業方針などについて聞きました。

自動車ボディー部品用プレス金型の設計などを主力事業とされています。

「一般的にプレス金型とは、金属やプラスチック・ゴムなどの材料に

圧力をかけて成形し、製品を大量生産するための金属の型です。当社が主に関わっているのは、ドアやルーフ、ボンネットといった自動車ボディー部品向けのプレス金型です。

これらの部品は厚さ0.6～0.7mm程度の鉄やアルミの板から作られます」

どのような技術で金型づくりを支えているのでしょうか。

「3D-CADという設計ソフトを使って金型の3D (3次元) 設計をメインに手掛けており、その中でもSE事業が主力です。これは、従来の金型製造過程で試作を繰り返し、不具合補正を現物で時間をかけて行っていたものをすべてバーチャル上で行う方法です。プレス成形時に起こる材料の割れ、シワ、ひずみや変形、ね



1 中央区清新の事務所

3 手で持つタイプの測定器。測定対象物のサイズや形状に応じて測定器を選定



2 実物を測定し、測定データから実用的なデータへ「きれいに作り直す」技術で3Dモデルを作成

4 2026年度青工研会長に就任。今年度の統一テーマは「日々挑戦、日々成長」



じれなどを予測し、問題があった場合は設計データを修正して再度シミュレーションを繰り返すことで仕上げていきます。このやり方により、金型の設計期間を従来比で大幅に短縮できるほか、それに関わるコストも減らせます」

2014年9月から始めた「3Dリバースエンジニアリング」とは、どのような技術でしょうか。

「ものづくり現場では通常、図面や設計データをもとに製品や部品の製造を行います。それに対し、3Dリバースエンジニアリングとは、これとは逆のプロセスをたどり、実物 (完成品) を測定、その情報をもとに2D図面や3Dモデルを作成する技

術を指します。この技術を活用することにより、すでに出来上がっている製品を測定し、設計通り正しく作られているかどうかの品質確認をしたり、図面が残っていない古い製品の形状をデータ化し、同じ物をリメイクしたりできます。その中で当社はスピーディーな非接触3D測定と、測定データをもとにしたより実用的で高品質な3Dデータ作成を得意としています。実際、取引先からも高い評価を得ています」

今後の事業展開と、青工研会長としての抱負もお聞かせください。

「当社は24年7月に豊田営業所 (愛知県豊田市) を開設し、現在は中部地方への展開を加速しています。ま

た、自動車業界以外にも取引先を広げており、建設やロボット、航空宇宙分野への進出も目指しています。一方、青工研会長としては、今年度は『日々挑戦、日々成長』をテーマに、スローガンとして『ネバーギブアップ』を掲げています。それぞれのメンバーが失敗を恐れず挑戦を続け、『地道に自ら学ばん』の理念のもと、自身の成長と自社の発展を目指し、お互いに切磋琢磨していきたいと思っています」

(株)ワード技研

〒252-0216
相模原市中央区清新8-18-9
TEL: 042-775-7810
<https://word-g.com/>